

# きっで KOSO!

過去の記事は  
こちら



## 出前授業で「きっかけ作り」

中高生の進路選択

時間の使い方の自由度が高まる夏休みは、進路選択に改めて向き合う時期でもあります。経済協力開発機構(OECD)が発表した教育に関する報告書によれば、2022年に大学等の高等教育機関に進学した学生

の中で、STEM(科学、技術、工学、数学)分野を選択した女性の割合は日本で7%、OECD諸国で最下位でした(OECD諸国の女性平均は15%)。男性(日本34%、OECD諸国平均41%)に比べてかな

り低いことがわかります。STEM分野に進学する女性の割合が低い背景として、「女子は理数科目が苦手」といった思い込みが進路選択や進路指導に及ぼす影響や、理工系分野に進学したり、活躍したりしているロールモデルが身近にいないことで、STEM分野でのキャリアをイメージしづらい点などが指摘されています。

私が在籍する男女共同参画推進室では、性別にかかわらず県内の中高生が最先端の研究テーマに触れ、研究者やエンジニアをより身近に感じられることで多角的な視点からキャリアを描



落合絵美さん

くことができるよう、出前授業や大学見学会といった取り組みをしています。

具体的には、岐阜大学の学生や教員、協力企業の社員などが、自らの進路選択の経験や仕事内容を紹介するほか、職業や働き方に対する思い込みにとらわれずに自分らしい進路選択を行うためのヒントなどについて講演しています。

7月に岐阜市内の中学2年生

を対象に実施した出前授業では「(講演者が)中学生の頃に漠然と抱いていた夢が現在の職業につながっていることがわかった」「自分の『やりたい!』を大切にしていきたいと思った」などの感想が数多く寄せられました。

講演者の研究テーマや仕事内容がすべての生徒の興味関心に重なるわけではありませんが、人生の先輩たちが中高生の頃に何を考え、どうやって進路選択してきたのかについて知ることは、生徒が進路選択に向き合う「きっかけ作り」に役立つのではないかと期待しています。

内閣府によれば、理工系の学部を志望する女性は幼少期に科学館、博物館や大学などが主催

するイベントに参加した経験が多いそうです。岐阜大学などの教育機関や企業などは、年間を通じて児童生徒、保護者を対象にさまざまなイベントを開催しています。新しい出会いや体験はきっと子どもたちの世界を広げてくれます。「やってみようかな?」の気持ちが芽生えたら、家族や友人と一緒に「おもしろい!」を探しに出かけてみてはいかがでしょうか。

おちあい・えみ 男女共同参画推進室助教。専門は



社会学。お茶の水女子大学大学院博士後期課程単位修得満期退学。修士(社会科学)。日本学術振興会特別研究員などを経て2018年から現職。



岐阜総合学園高で実施した出前授業。岐阜市内で

最後に

- 「〇〇はきっとムリだから」といった先入観や思い込みにとらわれることなく、「おもしろそう!」や「やってみようかな?」の気持ちで大切にしよう!
- 生徒を変える周囲の人たち(先生、保護者、地域の人々など)は、多様な進路選択や可能性を子どもたちに伝えることのできる重要なサポーター!

無意識の思い込み/偏見(バイアス)にとらわれず、「自分らしい選択」に向けてチャレンジしよう!